

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成22年4月15日(2010.4.15)

【公表番号】特表2009-528065(P2009-528065A)

【公表日】平成21年8月6日(2009.8.6)

【年通号数】公開・登録公報2009-031

【出願番号】特願2008-557419(P2008-557419)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)  
C 1 2 N 1/21 (2006.01)  
A 6 1 K 48/00 (2006.01)  
A 6 1 K 31/7105 (2006.01)  
A 6 1 K 31/711 (2006.01)  
A 6 1 K 31/713 (2006.01)  
A 6 1 K 35/74 (2006.01)  
A 6 1 P 35/00 (2006.01)  
A 6 1 P 31/00 (2006.01)  
A 6 1 P 31/12 (2006.01)  
A 6 1 P 31/04 (2006.01)  
A 6 1 P 33/00 (2006.01)  
A 6 1 P 31/22 (2006.01)  
A 6 1 P 33/10 (2006.01)  
A 6 1 P 33/12 (2006.01)  
A 6 1 P 31/18 (2006.01)  
A 6 1 P 33/02 (2006.01)  
A 6 1 P 33/06 (2006.01)  
A 6 1 P 31/10 (2006.01)  
A 6 1 P 31/08 (2006.01)  
A 6 1 K 47/48 (2006.01)  
A 6 1 K 47/42 (2006.01)  
A 6 1 K 39/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A  
C 1 2 N 1/21  
A 6 1 K 48/00  
A 6 1 K 31/7105  
A 6 1 K 31/711  
A 6 1 K 31/713  
A 6 1 K 35/74  
A 6 1 P 35/00  
A 6 1 P 31/00  
A 6 1 P 31/12  
A 6 1 P 31/04  
A 6 1 P 33/00  
A 6 1 P 31/22  
A 6 1 P 33/10  
A 6 1 P 33/12  
A 6 1 P 31/18  
A 6 1 P 33/02

A 6 1 P 33/06  
A 6 1 P 31/10  
A 6 1 P 31/08  
A 6 1 P 33/02 1 7 1  
A 6 1 K 47/48  
A 6 1 K 47/42  
A 6 1 K 39/00 H

【手続補正書】

【提出日】平成22年2月23日(2010.2.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) プロモーター；および

(b) プロモーターと動作可能なように連結されている核酸を含むポリヌクレオチドであって，ここで核酸は，

(i) 配列番号38の少なくとも最初の59アミノ酸残基を含み，配列番号38の最初の380アミノ酸より短く，ここで、配列番号38の最初のアミノ酸残基はバリンであるか，または配列番号38の最初のアミノ酸残基はメチオニンで置換されている改変型ActA；および

(ii) 異種抗原

を含む融合蛋白質をコードする，  
ことを特徴とするポリヌクレオチド。

【請求項2】

改変型ActAは，配列番号38のアミノ酸1-100を含み，ここで，配列番号38の最初のアミノ酸残基はバリンであるか，または配列番号38の最初のアミノ酸残基はメチオニンで置換されている，請求項1に記載のポリヌクレオチド。

【請求項3】

改変型ActAは，コフィリンホモロジー領域(KKRR)（配列番号23），およびリン脂質コア結合ドメイン(KVFKKIKDAAGKWVRDKI)（配列番号20）からなる群より選択される少なくとも1つのドメインの、ドメイン中の不活性化変異，ドメインの欠失，またはドメインの前でのトランケーションを含む，請求項1に記載のポリヌクレオチド。

【請求項4】

改変型ActAは，ActAの4つすべてのプロリンリッチドメイン(FPPPPP, FPPP, FPPPPP, FPPIP)（配列番号21, 配列番号22）を含む，請求項3に記載のポリヌクレオチド。

【請求項5】

プロモーターはactAプロモーターである，請求項1-4のいずれかに記載のポリヌクレオチド。

【請求項6】

異種抗原は，癌細胞，腫瘍，または感染性因子からのものであるかまたはそれに由来する，請求項1-5のいずれかに記載のポリヌクレオチド。

【請求項7】

異種抗原はヒトメソセリンである，請求項6に記載のポリヌクレオチド。

【請求項8】

異種抗原は、そのシグナルペプチド領域、そのGPIアンカー領域、またはそのシグナルペプチドとGPIアンカー領域との両方を欠失したヒトメソセリンの誘導体である、請求項6に記載のポリヌクレオチド。

【請求項9】

異種抗原はヒトPSCAである、請求項6に記載のポリヌクレオチド。

【請求項10】

異種抗原は、

- (a) そのシグナルペプチド領域の一部または全部；
- (b) そのGPIアンカー領域；または
- (c) そのGPIアンカー領域およびそのシグナルペプチド領域の一部または全部、を欠失しているヒトPSCAの誘導体である、請求項6に記載のポリヌクレオチド。

【請求項11】

請求項1-10のいずれかに記載のポリヌクレオチドを含むプラスミド。

【請求項12】

請求項1-10のいずれかに記載のポリヌクレオチドを含む*Listeria*細菌。

【請求項13】

*Listeria monocytogene*である、請求項12に記載の*Listeria*細菌。

【請求項14】

細胞から細胞への拡散、および／または非食細胞中への侵入について減弱化されている、請求項13に記載の*Listeria*細菌。

【請求項15】

a c t A 欠失変異体またはa c t A挿入変異体である、請求項14に記載の*Listeria*細菌。

【請求項16】

*Listeria*細菌はそのゲノム中に該ポリヌクレオチドを含む、請求項12-15のいずれかに記載の*Listeria*細菌。

【請求項17】

該ポリヌクレオチドはゲノム中の病原性遺伝子中にインテグレートされており、ここで、ポリヌクレオチドのインテグレーションは：

- (a) 病原性遺伝子の発現を混乱させるか；または
- (b) 病原性遺伝子のコーディング配列を混乱させる、  
ことを特徴とする、請求項16に記載の*Listeria*細菌。

【請求項18】

病原性遺伝子はp r f A依存性遺伝子a c t Aまたはi n l Bである、請求項17に記載の*Listeria*細菌。

【請求項19】

請求項12-18のいずれかに記載の*Listeria*細菌を含むワクチン。